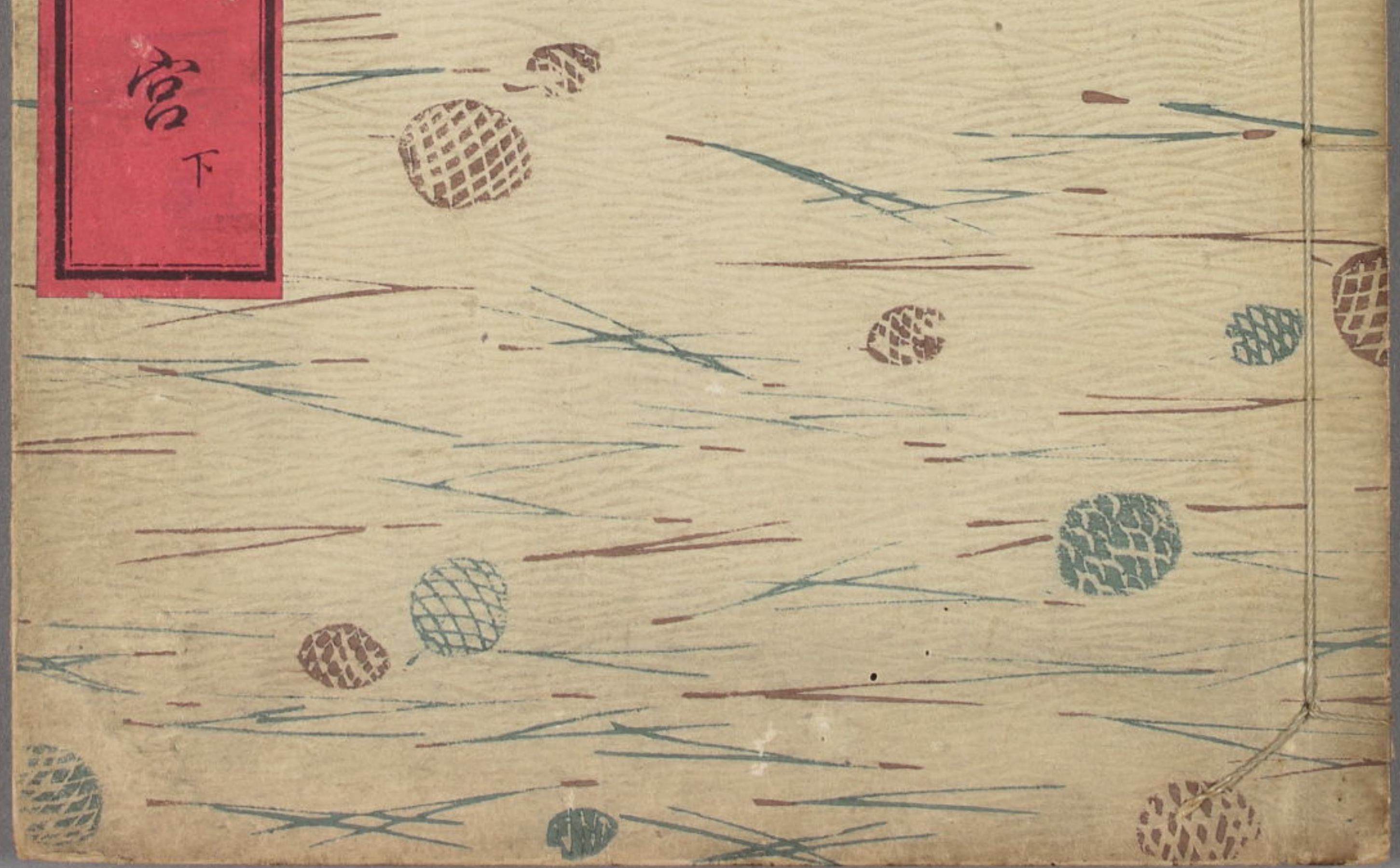




聲曲類纂

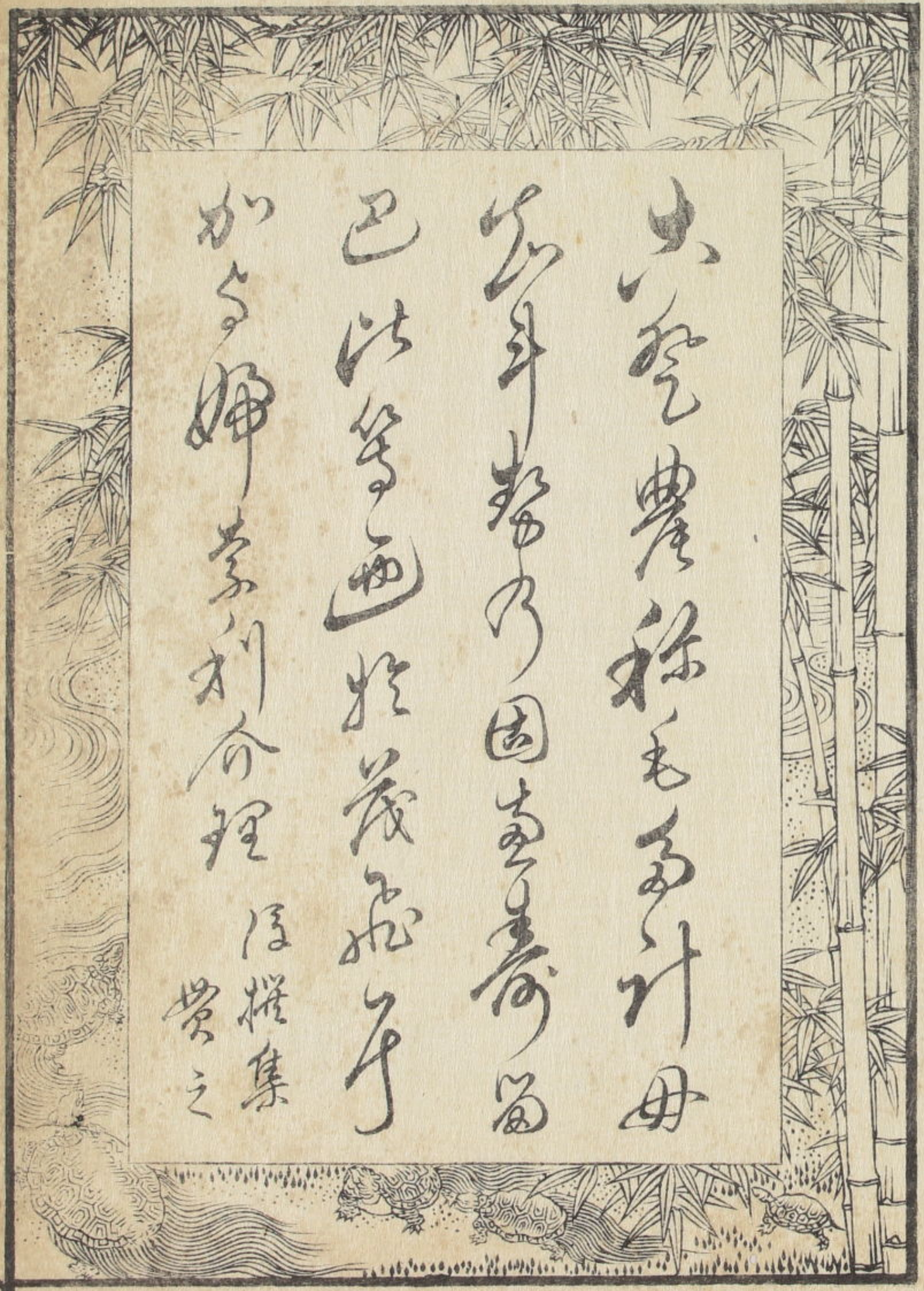
宮下

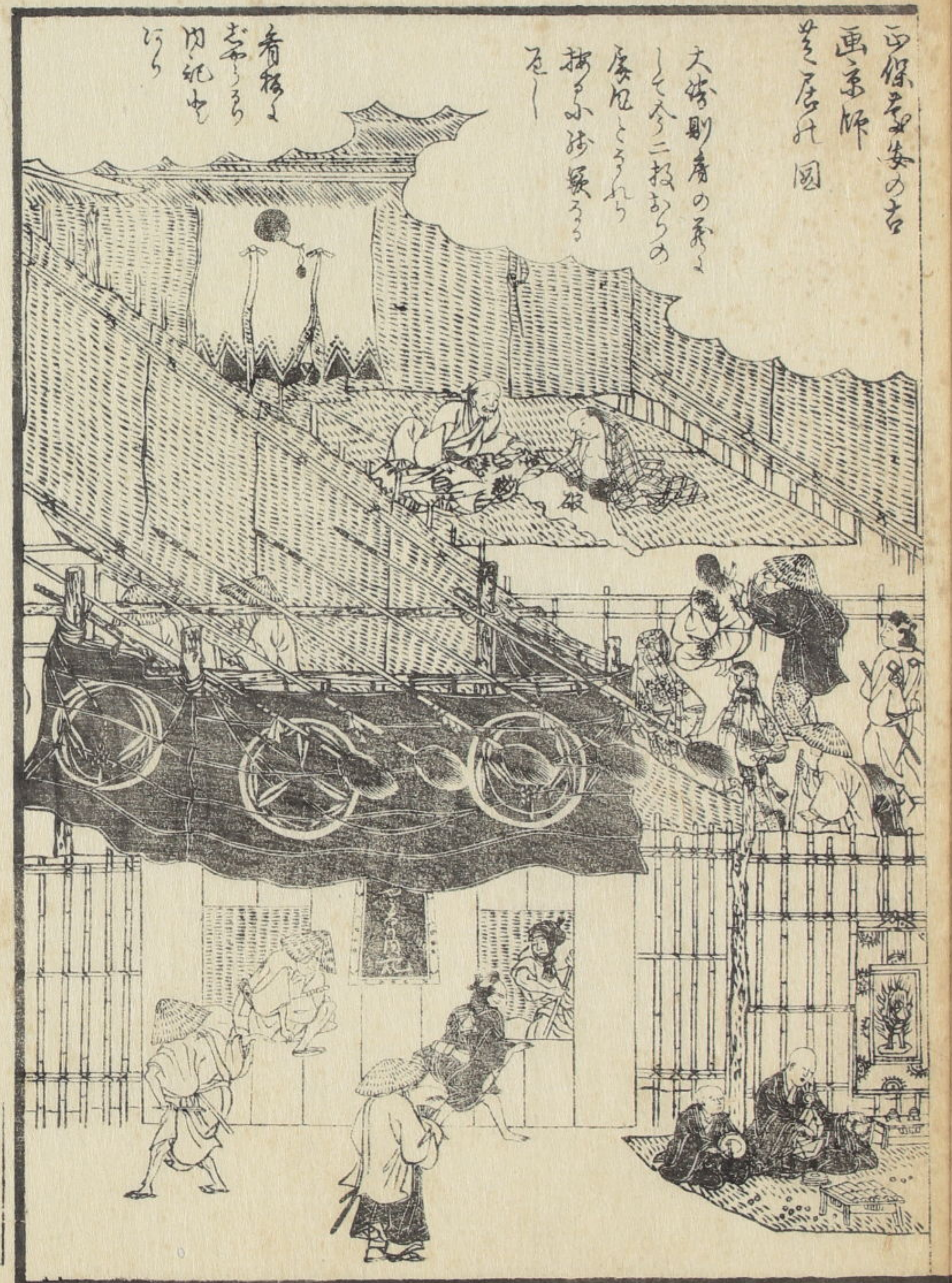
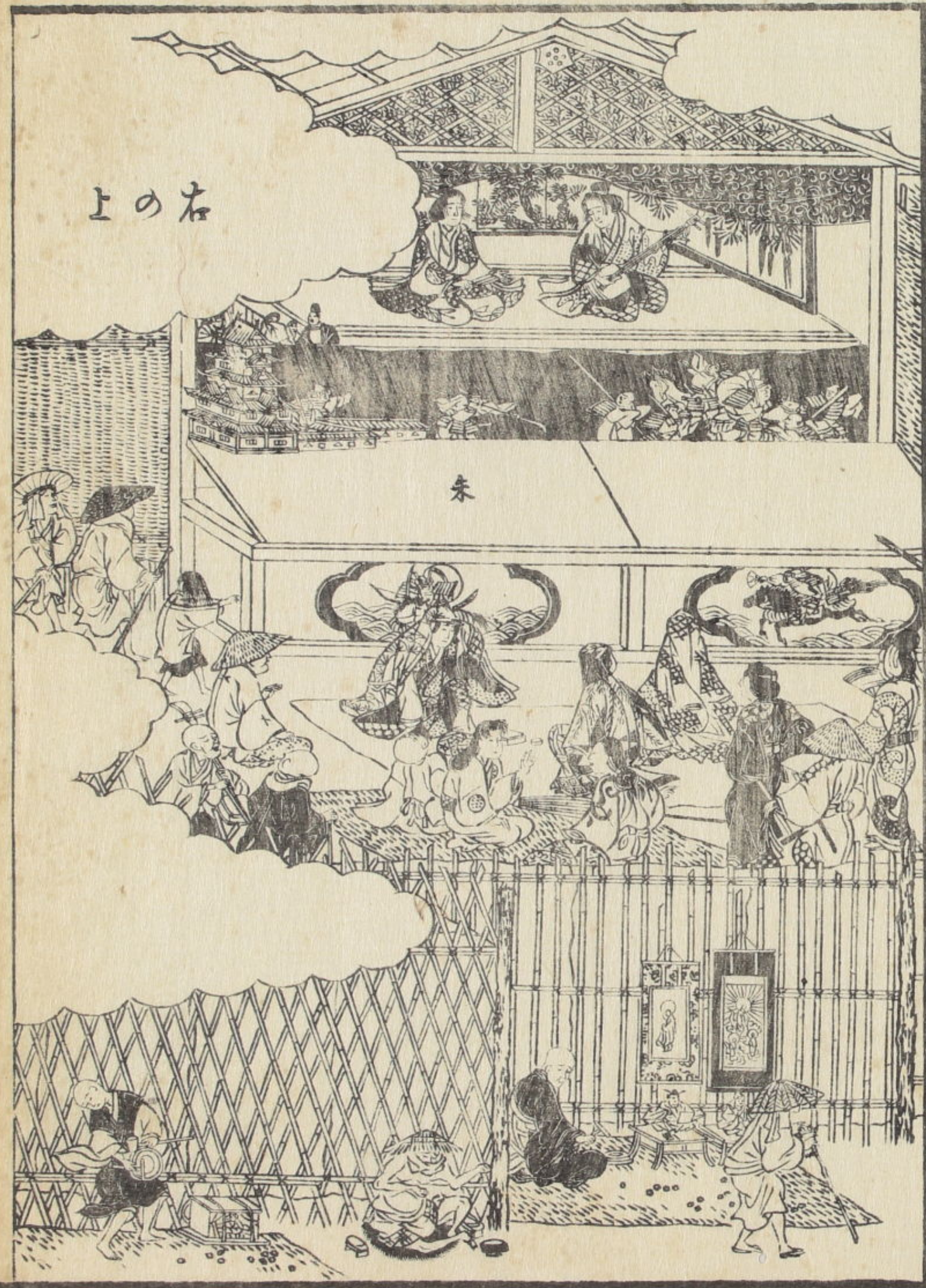
卷之壹下
 京都浪花諸流
 洋猫瑠璃畧傳
 系圖

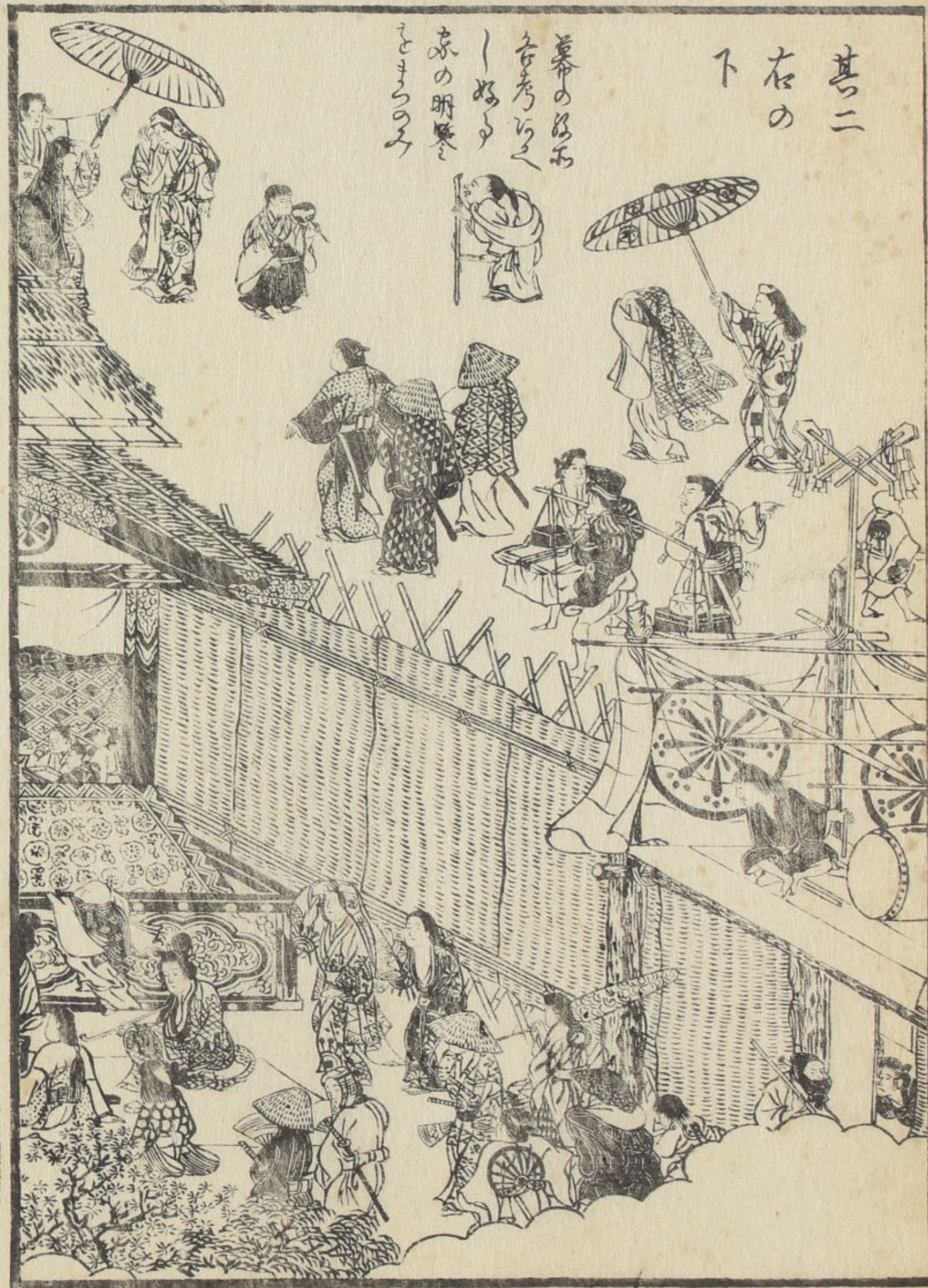
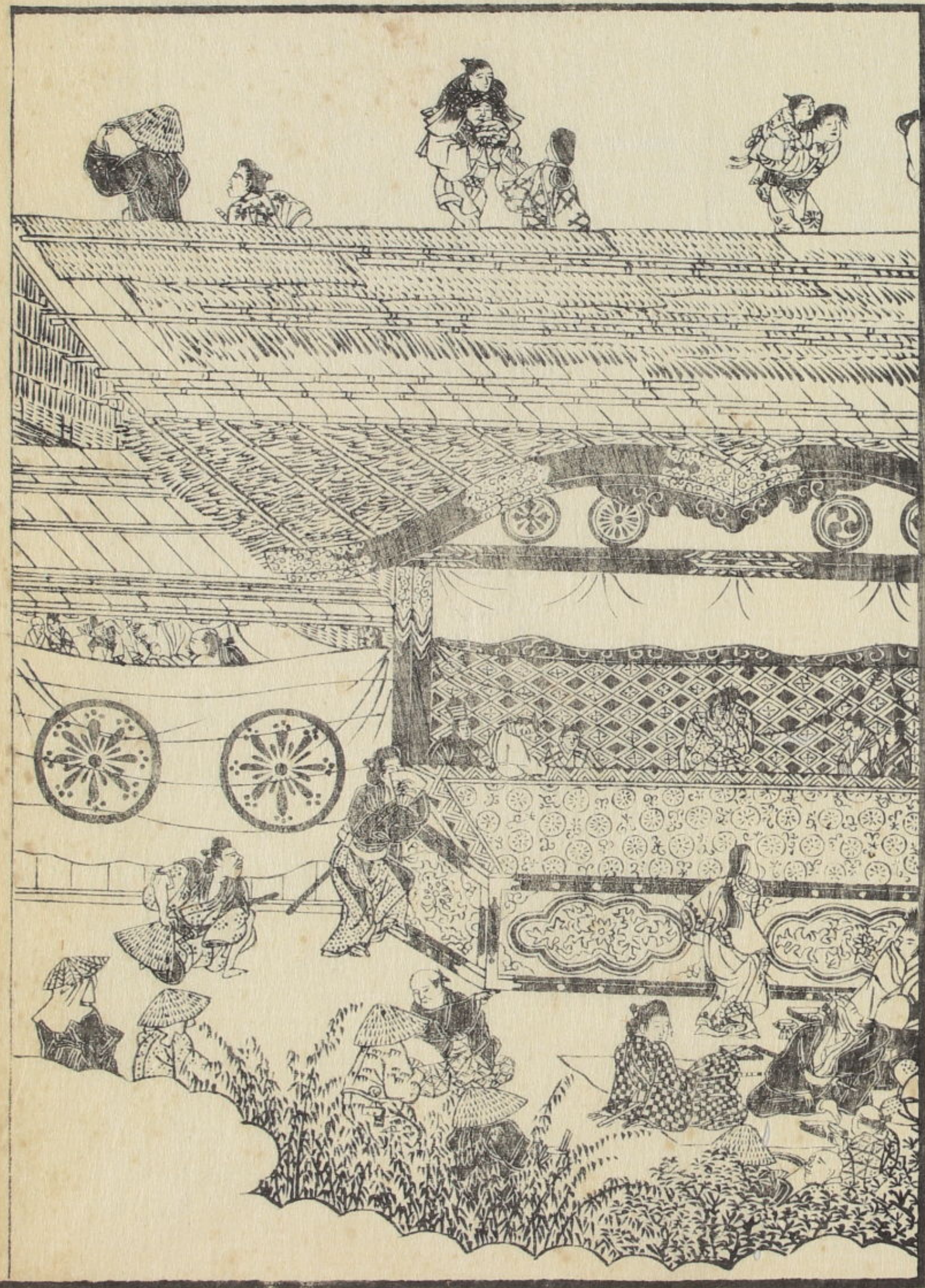


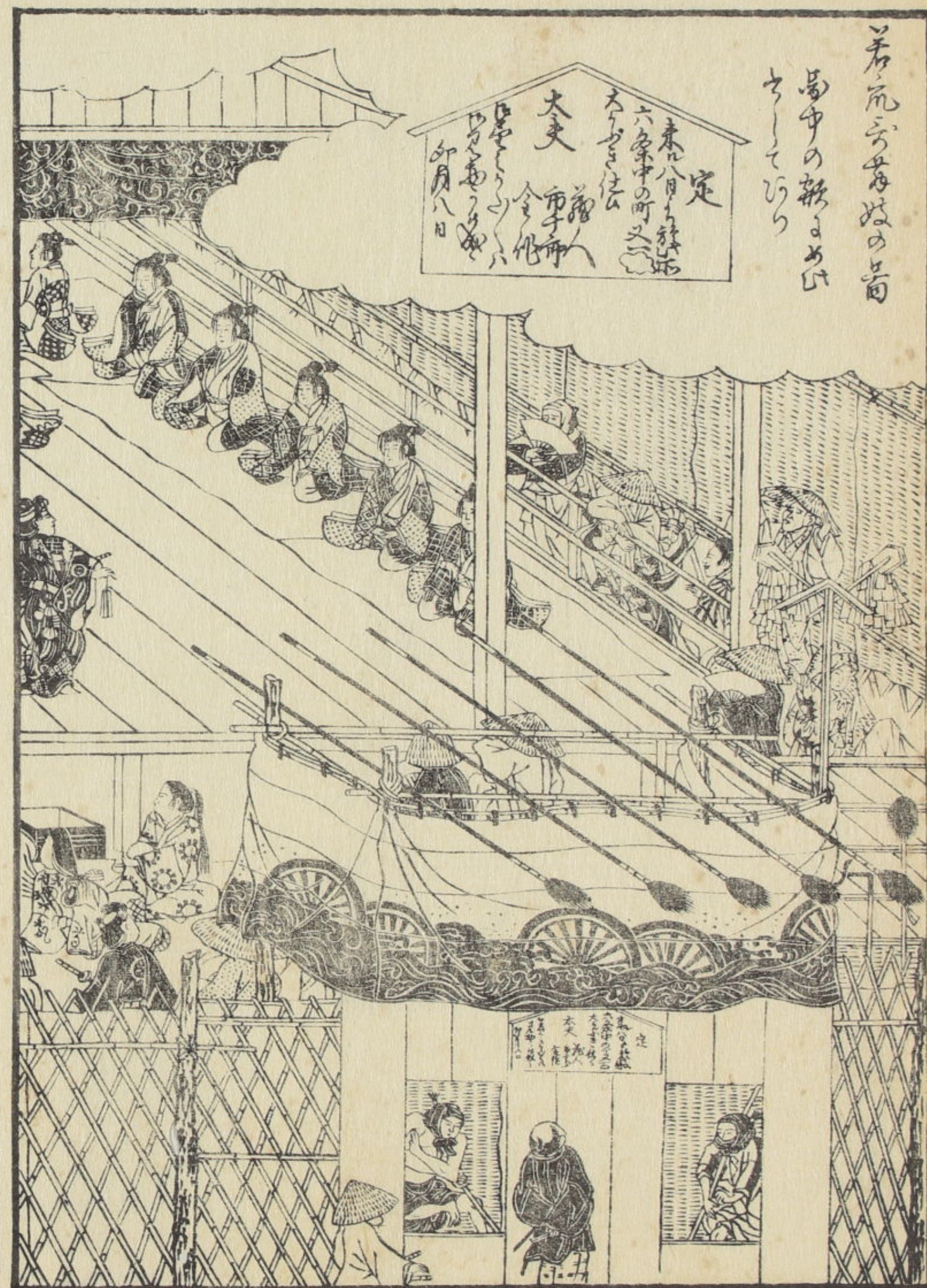
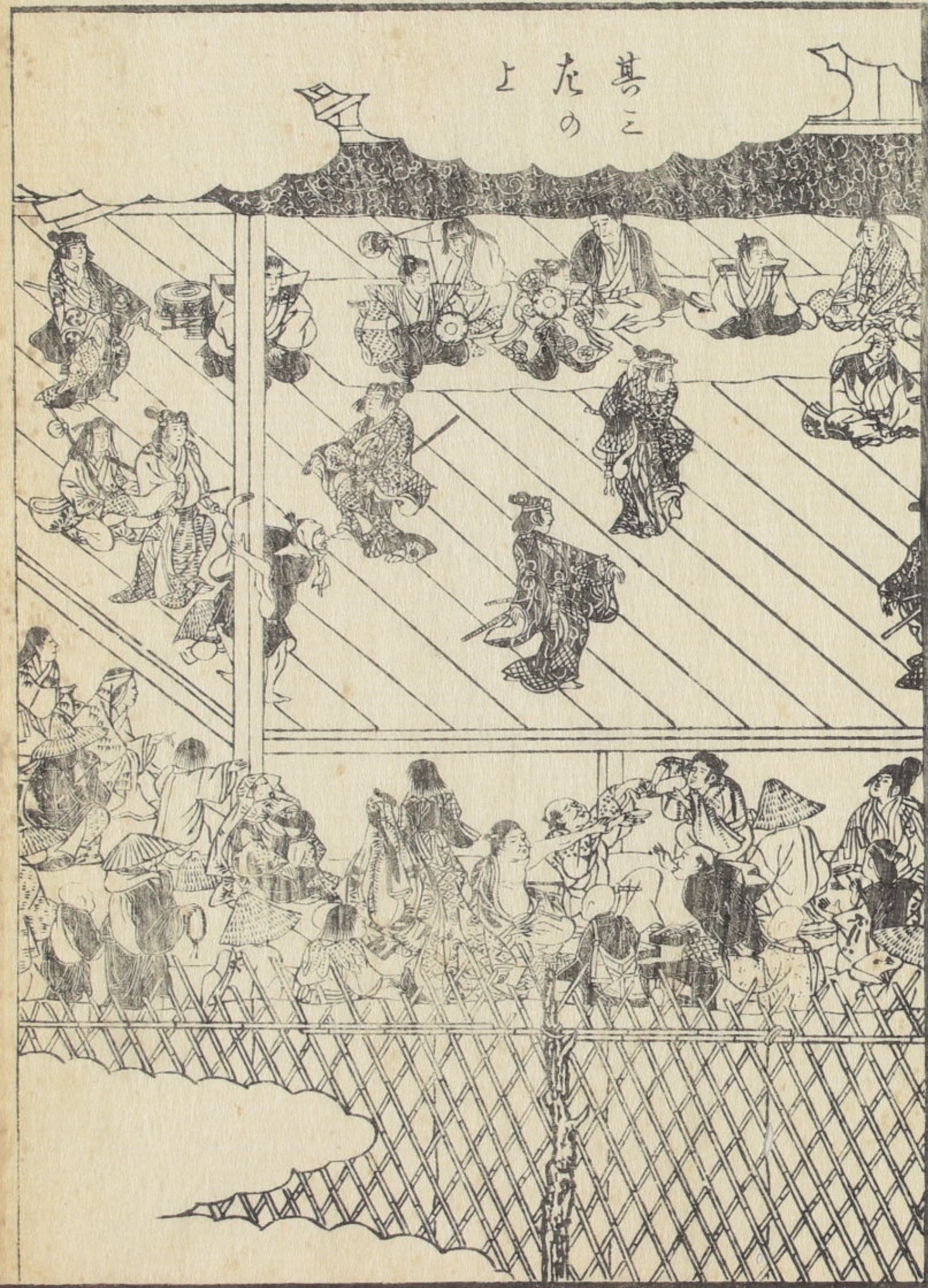
六登典祿多計毋
如斗者乃固重者何留
已以等通於茂飛子
如与坤崇利介理

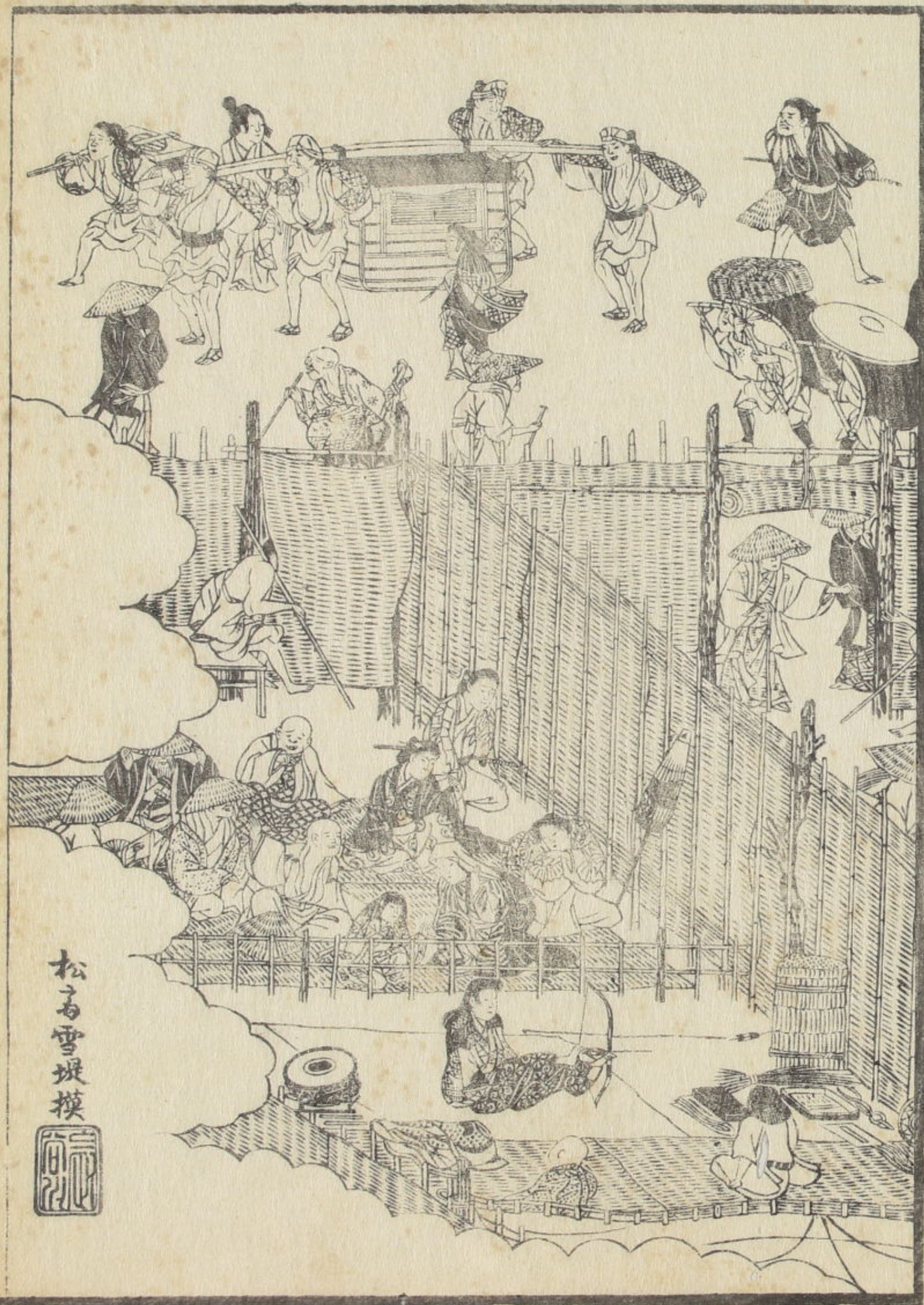
厚樞集
卷之











松島雪堤模



其四
九の下

丁酉年十月廿一日 大月奉つて... 伊勢地方の... 徳川幕府の... 寛永十一年... 伊勢地方の... 徳川幕府の... 寛永十一年... 伊勢地方の... 徳川幕府の...

寛永十一年十月廿一日 大月奉つて... 伊勢地方の... 徳川幕府の... 寛永十一年... 伊勢地方の... 徳川幕府の... 寛永十一年... 伊勢地方の... 徳川幕府の...

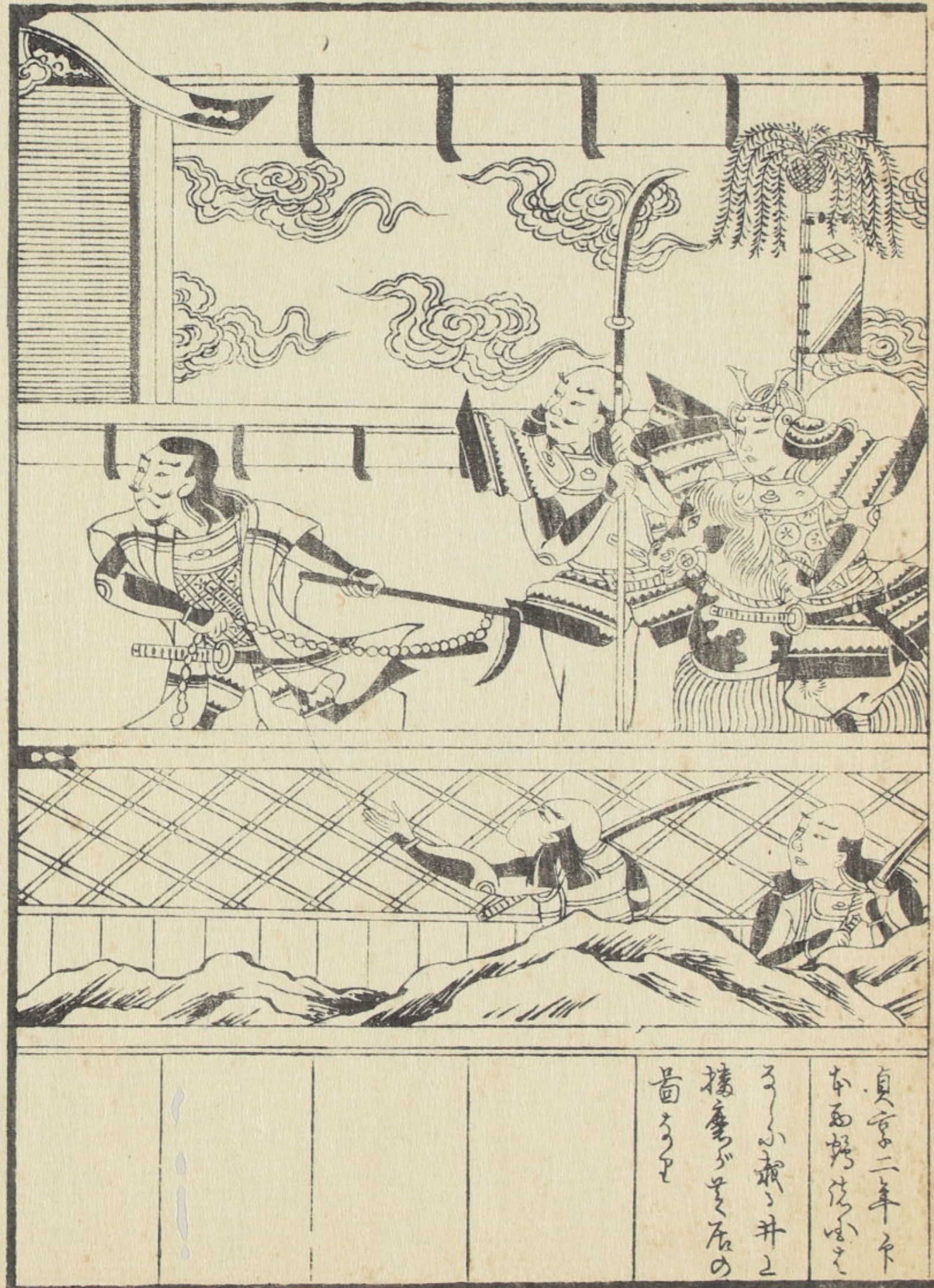
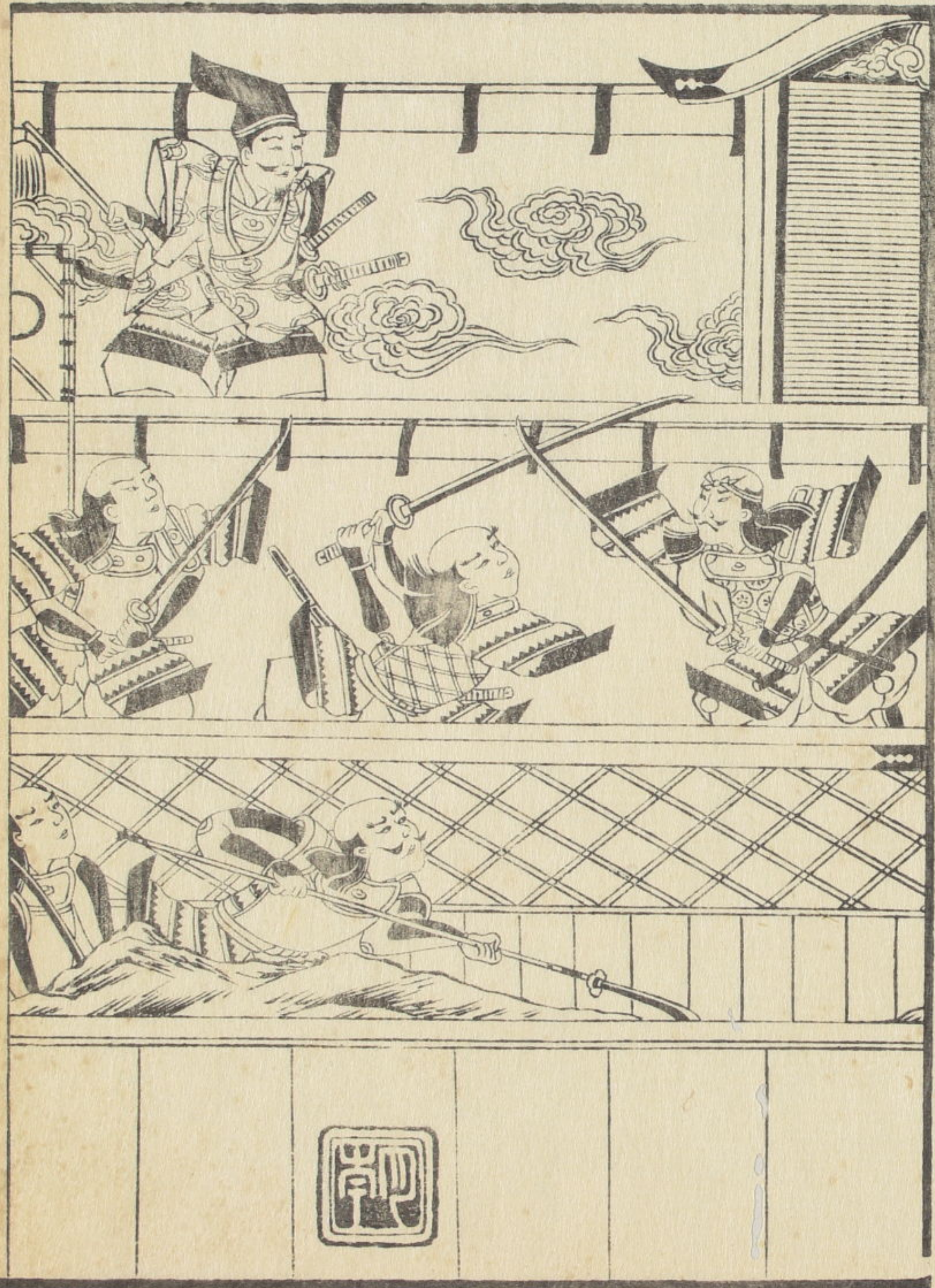
同 一 天 下 杉山丹後探茶原法隆

同 此海をまわつて人おぼせり人おぼせり... 大坂

通称市井... 井と播磨... 此海をまわつて人おぼせり... 大坂

徳和... 新上... 女神... 白旗の由来... 敬河の建根... 徳和... 新上... 女神... 白旗の由来... 敬河の建根... 徳和... 新上... 女神... 白旗の由来... 敬河の建根...

新上... 女神... 白旗の由来... 敬河の建根... 徳和... 新上... 女神... 白旗の由来... 敬河の建根... 徳和...



貞享二年
 本西郷信元
 三ノ森ノ井ノ
 橋屋ガ其辰ノ
 昔ナリト

弱法師

法然上人

いづはあはれ

了性法師

とつねにあはれ

法然上人

いづはあはれ

とつねにあはれ

伏見常盤

あはれ

藤原門

あはれ

あはれ

あはれ

あはれ

あはれ

あはれ

あはれ

あはれ

あはれ

あはれ

あはれ

あはれ

あはれ

あはれ

あはれ

あはれ

あはれ

あはれ

あはれ

あはれ

あはれ

あはれ

あはれ

あはれ

あはれ

あはれ

あはれ

あはれ

あはれ

あはれ

あはれ

あはれ

已々教

牛乳

海

水

源氏之代紙

佛

源氏

八

あはれ

あはれ

あはれ

あはれ

あはれ

あはれ

あはれ

あはれ

あはれ

あはれ

あはれ

あはれ

あはれ

あはれ

あはれ

あはれ

あはれ

あはれ

あはれ

あはれ

あはれ

あはれ

あはれ

あはれ

あはれ

あはれ

あはれ

あはれ

あはれ

あはれ

あはれ

あはれ

あはれ

あはれ

あはれ

あはれ

此の記述は、江戸時代中期の書物である。内容は、
 自然現象や社会生活に関する観察や記述が主である。
 文字は、当時の書体（蘭文字）で書かれており、
 読み取りが難しい部分が多い。

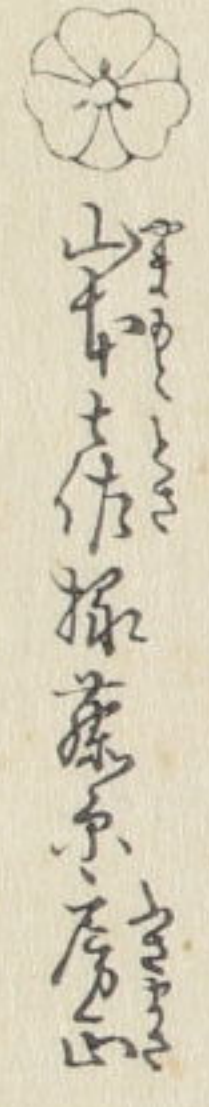
此の記述は、江戸時代中期の書物である。内容は、
 自然現象や社会生活に関する観察や記述が主である。
 文字は、当時の書体（蘭文字）で書かれており、
 読み取りが難しい部分が多い。

江戸の町並み
 江戸の町並み

江戸の町並みは、江戸時代中期に大いに発展した。この頃には、
 町並みの整頓が行われ、町割りが明確になった。

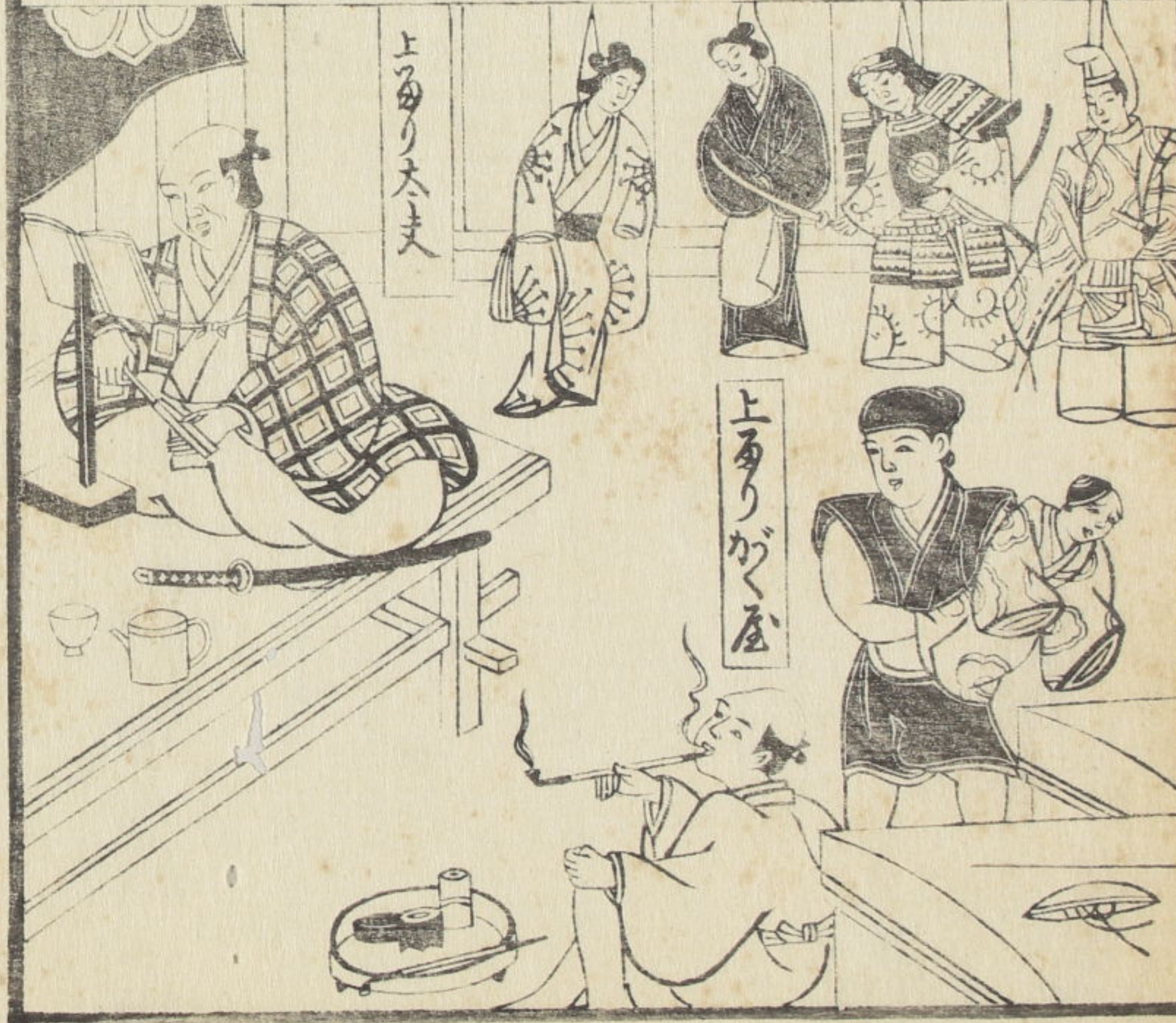
江戸の町並みは、江戸時代中期に大いに発展した。この頃には、
 町並みの整頓が行われ、町割りが明確になった。

江戸の町並みは、江戸時代中期に大いに発展した。この頃には、
 町並みの整頓が行われ、町割りが明確になった。

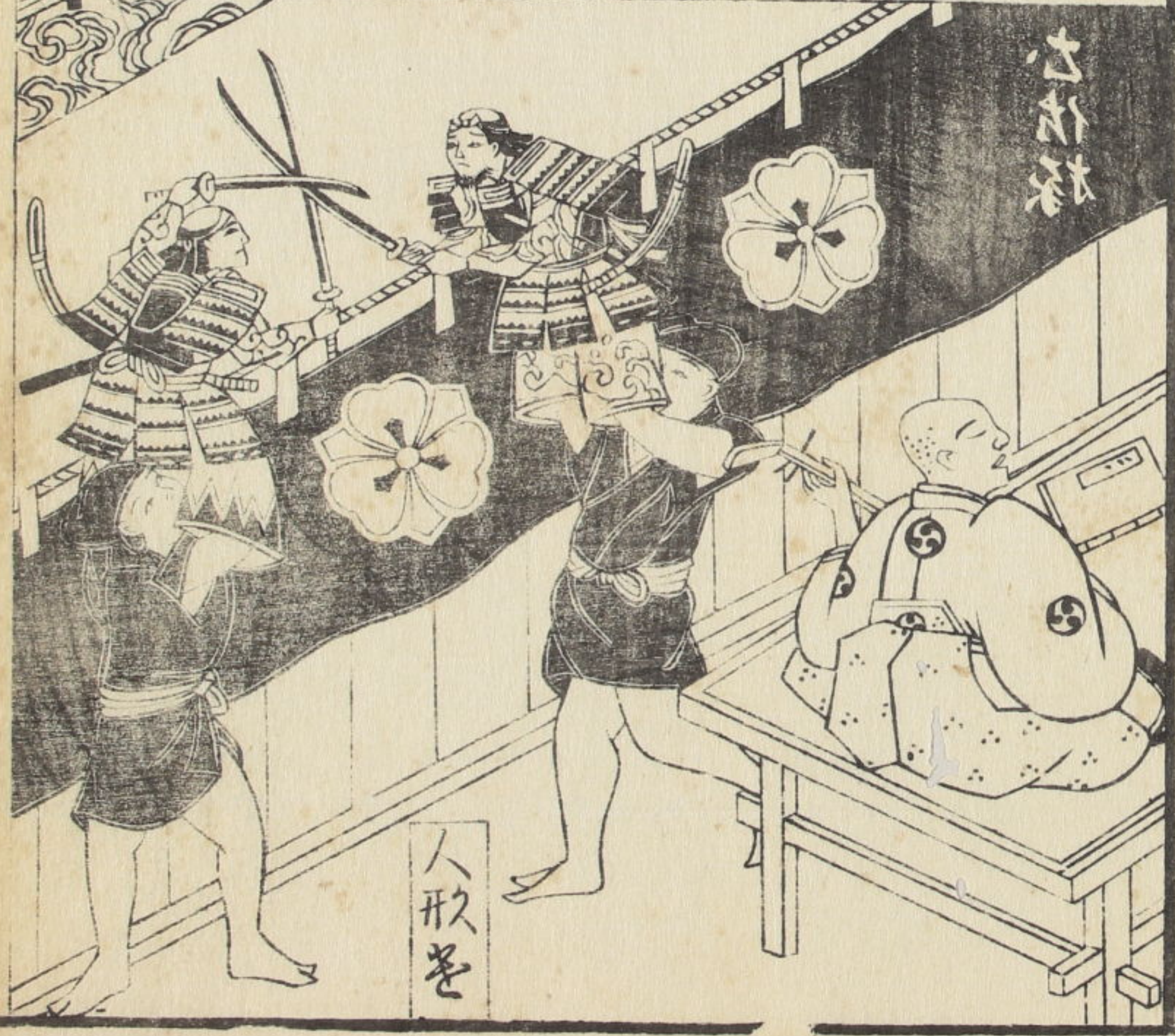


江戸の町並みは、江戸時代中期に大いに発展した。この頃には、
 町並みの整頓が行われ、町割りが明確になった。

新海難を憂 海難難
 御前のことをはげし
 ありとつけかたりと
 とうや中はにやこれ
 肉を肉とせよとのあり
 陸代は若くふれい
 ましよといてさて今
 ともやとせよか
 ちまとしてその
 こそこのあつる
 てまは流を田舎
 もりてとせり



人形巻 さぬくの人形
 ありらびとたなり
 とうとうは
 りりらー海
 けきまい
 とけら
 世國の孫三々月
 初葉園葉七の
 一と山
 世は
 福は
 人形



とまは浄福徳寺歌たふ江尻 世中人等も活き入中ふらわもせん所とゆふ六井上の

三樹さま 源孝上人記 大蔵府方徳書

阿弥陀坊 中倉大信 日祝上人法難記 中州地誌

三日月徳法信 三塚相徳 百舎寺の集政 辨史國書

長命寺園帳 中山村中物徳 所金二十七 之福寺の年々八月七の祀科と云せ

善喜寺寺書 照子姫揮筆 高田権徳日本紀 世に宮堂村由良

系 松元治さま

山本土佐徳寺門人 山本と名をまなび修徳寺よりハ 本朝一冲が 山本と名をまなび修徳寺よりハ

ありて活きさま ありて活きさま ありて活きさま ありて活きさま

ありて活きさま ありて活きさま ありて活きさま ありて活きさま

ありて活きさま ありて活きさま ありて活きさま ありて活きさま

より妙書抄の巻末 ありて活きさま ありて活きさま ありて活きさま

系 林和果さま

其徳詳る 其徳詳る 其徳詳る 其徳詳る

浄福徳寺 浄福徳寺 浄福徳寺 浄福徳寺

大板 表具又ば市

文部省門人 文部省門人 文部省門人 文部省門人

ありて活きさま ありて活きさま ありて活きさま ありて活きさま

ありて活きさま ありて活きさま ありて活きさま ありて活きさま

大板 道具部古巻 道具部古巻 道具部古巻

予初吉より無任とて休年れぬれとて孫の酒を少飲して安んずるを以ては其の節を以て
宛わらへ一室として湯曲を治れりぬれ幸へ泰に安んずるが事あり侍り
光澤良ぬれ未だのころ
世を久し入道一室としてまこと加へてまこと安んずる
其長十一年

〇〇〇 即地盤音以

ハシ代音

相重

この頃

らそ一組何れの如くも

相傳一後

世丹意一後

十一後

十二後

小社の如く造り振振

相傳一

相傳一

相傳一

相傳一

相傳一

相傳一

相傳一

相傳一

相傳一

そまは江戸山崎三浦 ありまを鑑 つね松
早もつ様をうかがひ侍りてし中へ様をうかがひ侍りてし中へ

能坐

らそ一組はあふ多事申 出来つわりのし御ふまへ
相傳一



官吉路豊後相傳盛村

都一申し門人にて相傳一

相傳一

相傳一

相傳一

相傳一

相傳一

相傳一

相傳一

相傳一

相傳一

相傳一

相傳一

相傳一

相傳一

相傳一

相傳一

